

いうつ 猪移り遺跡

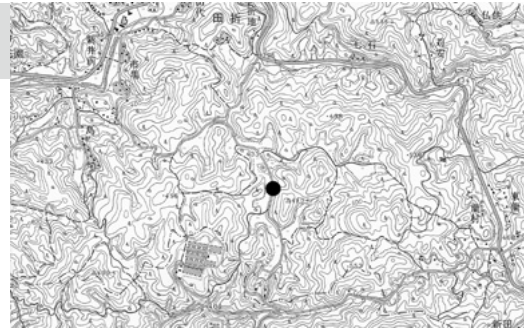
所在地 豊田市下山田代町字猪移り
(北緯35度1分26秒 東経137度19分13秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成24年5月～平成24年10月

調査面積 4,400 m²

担当者 宮腰健司・武部真木・蔭山誠一



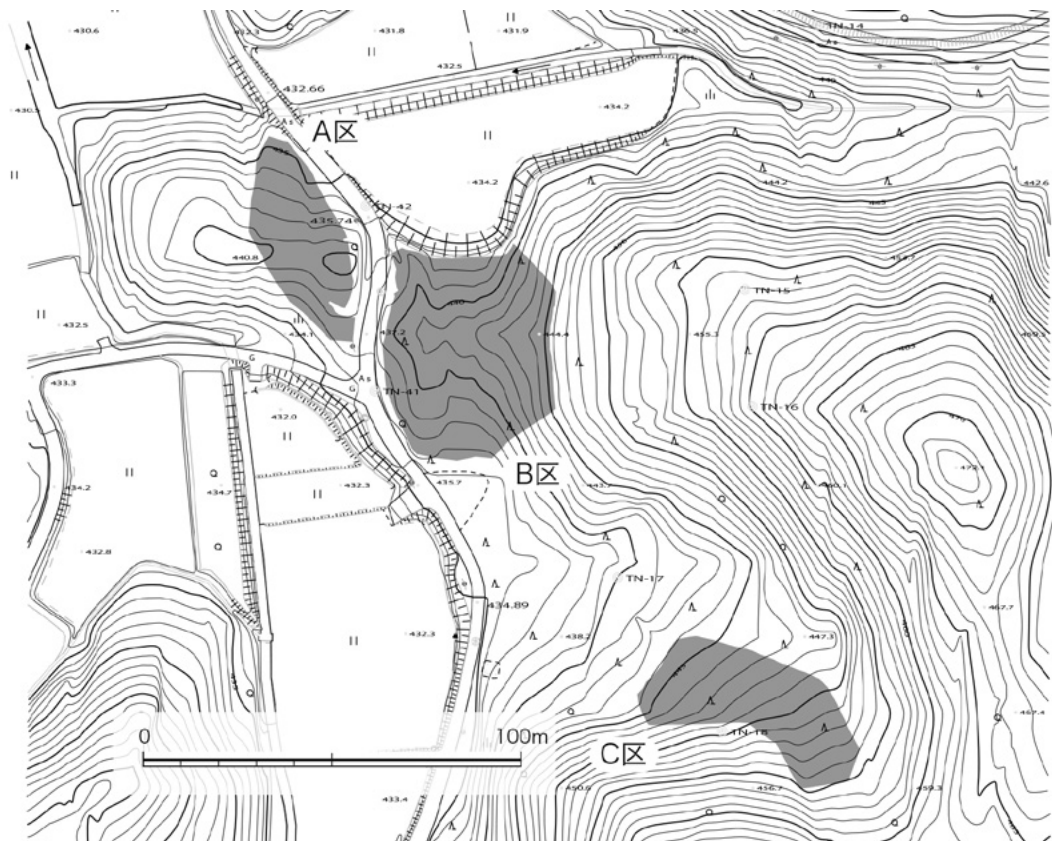
調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて平成24年5月から10月にかけて実施した。調査面積は4,400m²であり、A・B・C区の3調査区の調査を行った。

立地と環境 遺跡は豊田市域の北東部の丘陵地帯にあり、下山地区を流れる郡界川の支流、沖川の東岸の標高430m前後の丘陵上に立地する。近接してトヨガ下遺跡、柿根田遺跡があり、遺跡東側に続く谷の上流部には蔵平遺跡、栗狭間遺跡などの遺跡が分布する。

調査の概要 今回の調査では、地形的に連続するA,B区において縄文時代早期を中心とした多数の遺物が出土したほか、数基の土坑が確認できた。また試掘調査等で確認された平安～江戸時代については、各地区において遺物を採取した。なお近代～現代に操業したとみられる炭焼窯跡については表土掘削作業の前に個別に位置・規模等の情報を記録した。

A区の遺構 A区では尾根上に土坑(017SK)1基と、北側斜面で土坑2～4基を検出した。017SKの平面形は隅丸方形をなし、長さ3.24m、幅1.62m、深さ0.66mの規模をもつ。石器(剥片)と



猪移り遺跡 調査区位置図 (S=1/2,000)

縄文時代中期後半～後期前半の土器を含む。015SKは長さ1.3m、幅0.76m、深さ0.3mの楕円形の土坑であり、内部に少量の焼土と炭化物、被熱の痕跡のある礫などが廃棄されている。これら以外の土坑は不確実な部分が多く、倒木痕などの可能性も考えられる。遺物は土坑周辺から北側の斜面にかけて分布しており、尾根上で検出したチップ、剥片類を除くほとんどの資料は斜面に二次堆積したものと考えられる。

B区の遺構 B区においても尾根上で土坑を検出した。024SKは直径約1.0m、深さ0.47m規模の円形の土坑であり、主に凝灰岩質の剥片類が出土した。022SKは径1.16～1.5m、深さ0.7m規模の楕円形の土坑であり、樹木根に攪拌された上層に早期後半の土器が多く含まれる。黒



主要遺構の配置と遺物の分布 (S=1/500)



A・B区全景 (北から)



B区北側斜面の谷状地形 (北東から)



B区全景 (左が北)



B区022SK 完掘状況



異形局部磨製石器 (B区)



A区017SK完掘状況



有舌尖頭器 (A区)



A区015SK炭化物・礫の出土状態



C区全景

色土を埋土とする谷状の地形のうち、やや規模の大きなものが北側斜面に2カ所、南側斜面に1カ所があり、土坑のある尾根に近い北側斜面の谷埋土から石器、早期土器片多数が出土した。それ以外の2カ所の谷からは押型文土器、凝灰岩剥片、石匙、灰釉陶器、土師器などが出土したが、ごく少量である。

出土遺物 出土遺物の多くは、A区尾根上からB区谷状地形にかけての範囲に分布し、総数は土器と石器あわせて2,000点以上に及ぶ。土器はいずれも小片ではあるが少量の押型文土器(山形文、楕円文)のほか粕畑式を主体とした早期後半の条痕文系土器が多数を占める。また中期～後期の土器は主にA区に偏在するようである。石器類は草創期の有舌尖頭器(1点)、早期の異形局部磨製石器(1点)があるほか、チャート、凝灰岩、黒曜石を用いた石鏃、スクレイパー、石匙、その他剥片、花崗岩を用いた磨石・叩き石、凹み石、台石などがある。このうち石鏃はA・B区合わせて50点を超える。またA区の尾根上には凝灰岩を主体とした剥片やチップが集中して分布する範囲があり、この付近で石器製作が行われていた可能性が考えられる。

C区の調査 C区では明確な遺構はほとんど確認されなかった。ただ北向きの斜面に近代以降の炭焼窯跡が多数分布し、調査範囲内では3ヶ所を調査した。石鏃1点のほか、山茶碗、近世・近代陶磁器片が包含層より出土した。

まとめ A・B区の縄文時代の遺物の分布状況から、利用範囲は東から西へ延びるやや低い丘陵の先端付近、尾根上の比較的狭い部分に限定される。少なくとも縄文時代早期には断続的に利用されるキャンプサイト的な場所であったと考えられる。(武部真木)